特集◎語り継ぐ理恵ちゃんの命

安曇野市の取り組み

●運転免許証自主返納支援制度　～あづみん回数券 9,000 円分を交付～

自主的に運転免許のすべてを返納した市民に対し、デマンド交通「あづみん」の乗車回数券 9,000 円分を交付しています。交付には免許を返納してから１年以内に申請していただく必要があります。運転に不安を感じていたり、免許を返納しようと考えている皆さんはぜひご検討ください。

問地域づくり課生活安全係　TEL71・2495　FAX72・3176

デマンド交通「あづみん」とは …

事前に電話で予約した人を自宅から目的地まで送る乗り合い型の公共交通です。平日の午前８時から午後４時台まで１時間間隔で運行しています。料金は１乗車 300 円で、小学生または障がい者手帳等をお持ちの人は 100 円で利用できます。利用には事前に登録手続きが必要です。登録用紙は市役所または社会福祉協議会もしくは市ＨＰ（ホームページ）から入手できます。

問政策経営課　TEL71・2401 ／安曇野市社会福祉協議会　TEL71・1233

●地域訪問型交通安全教室　～お住いの地域で教室を開きます～

普段なかなか交通安全教育を受ける機会がない人のために、地元の公民館など自宅から行ける場所へ市が出張し、交通安全教室を行います。健康教室やミュージカルを含んだ教室などもできます。地域のイベントの際などにぜひご利用ください。

問地域づくり課生活安全係　TEL71・2495　FAX72・3176

●通学路交通安全プログラム　～幅広い視点で合同点検します～

地域からの要望をもとに通学路における危険箇所の合同点検を実施しています。警察や市・県の道路部局、交通安全協会など市内の交通に関わる機関・団体が危険箇所を訪れ、交差点の検証、グリーンベルト・カーブミラーの必要性など幅広く対策を検討し、通学路の安全確保を図ります。過去の点検箇所および対策等は市ＨＰ（ホームページ）でも見ることができます。

グリーンベルトの整備状況は？

平成 23 年度から地域要望を受けて、緊急性、必要性から優先度を決めて順次整備しています。整備済み延長は、平成 30 年度末時点で約 35km です。今後も計画的に整備を進めます。

安全で安心な市民生活を育むために

市長 宮澤 宗弘

市内では本年、交通事故によりすでに３人の尊い命が奪われており、大変憂慮すべき事態となっています。市としましても、関係機関と連携し、「高齢者と子どもの交通事故防止」を重点テーマに、交通安全の意識高揚を図るとともに、歩道やグリーンベルトなどの整備を進めてまいります。また、デマンド交通「あづみん」の利便性向上とともに、地域公共交通網形成計画に基づき、交通施策を進めてまいります。

７月 22 日から 31 日まで「夏の交通安全やまびこ運動」が行われます。学校も夏休みに入り、子どもや観光客が多くなる時期です。地域と行政が一体となって皆さん一人ひとりが交通安全への意識を高めて欲しいと思います。

子どもと高齢者を守る

NPO 法人交通教育

とらふぃっく Sisters

●プロフィル
松本市を拠点に、歌やダンスを取り入れた交通安全教室を行う。子どもや高齢者に分かりやすい交通教育を掲げており、長野県内だけでなく、全国でも活動している。

子どもに「何を教わったの？」と聞いてみてください。

模擬道路を使った自転車教室

市内の認定こども園や小・中学校の交通安全教育に携わっているのがＮＰＯ法人とらふぃっくSistersの皆さんです。理事長の山崎油美子さんは、成長段階に応じた教育を意識していると話します。

「自転車教室を行うと、小学３年生はまだ自転車に乗り始めたばかりで、どんな乗り方が事故につながるか分かっていない子が多いです。逆に６年生は運転に慣れ、ヘルメットのひもを締めないなど油断してしまう子がいます。学年によって理解や成熟度も異なるため、それに合わせて教える内容や方法を変えています。保護者の皆さんは、家庭でも話題にしていただき、子どもが何を教わってきたのか聞いてあげてください。そうすることで子どもたちも学んだことを忘れないと思います」。

免許を返した高齢者が疎外感を感じないサポートが大事。

穂高自動車学校　校長

内川　源一郎 さん

●プロフィル
市内唯一の自動車学校を運営。市と連携し年３回、教習コースを使った高齢者交通安全教室を開催している。

高齢者講習に来る高齢者は朝来たときは不機嫌で、終わると晴れやかな顔で帰っていきます。そう話すのは市内唯一の教習所である穂高自動車学校の内川源一郎さんです。

高齢者にとって免許とは？

「70歳以上の人は運転免許更新時に一定の講習を受ける必要があります。昨今は高齢者の事故が何かと取り挙げられますが、それでも高齢者講習の予約は半年先までいっぱいです。安曇野はまだまだ車社会で、免許が無くなればどうしても生活が不便になるのは否めません。しかし年齢とともに身体の機能は衰えていくのも事実です。いつか自分の衰えを認め、免許を手放す時が来ます」。

重要なのは家族のサポート

「高齢者にとって免許を手放すことは、心理的に社会から疎外されるような感覚になるのではないでしょうか。そんな時、免許を返しても家族が買い物に連れて行ってくれるという安心感があるだけで全然違ってきます。大事なのは高齢者を孤立させないこと。行政等のさまざまな施策もありますが、一番には近くにいる家族が高齢者をサポートしてあげて欲しいと思います」。